

○副議長（谷田部孝一君）次に、豊田有希君。

〔豊田有希君登壇〕

○豊田有希君 港北区選出の豊田有希です。令和2年度予算案に関連して、通告に従い質問してまいります。

まず、新型コロナ対策について伺います。

本問題は本日時点でもいまだ残念ながら拡大傾向にあり、本市においても、市民全ての健康はもとより、医療、福祉の提供体制や、今後の教育現場や市内経済活動への影響も危惧され、決して楽観できない状況です。やむを得ないこととはいえ、市民生活や経済活動への制約は目に見えてふえつつあり、今後当面の間は景気等の停滞は避けられそうもありません。また、社会的にも多くの催し事の中止や、人混みへの拒否感、職場、学校等における対応の混乱、風評被害、不正確な情報の流通などの副次的な問題が多々生じています。そうした中、政治行政はこうした日々変化する情勢にあっても遅滞なく混乱を収束するために最大限努めていかなければなりません。こうして予算案の審議をしている中とはいえ、正直に申し上げて次年度は、特に経済的には必ずしも思いどおりにはならない状況になるであろうことをもはや覚悟して取り組まなければならないように感じます。

そこでまず、新型コロナウイルスに関し、これから生じるであろうさまざまな問題に対し、市として対応のおくれや切れ目が生じることがないように、東京都などと同様に総合的対策のための補正予算を緊急に組まれてはどうかと考えますが、そのおつもりがあるか、見解を伺います。

本市では、本定例会後には市庁舎の引っ越し等も控えていますので、そういった事情も踏まえてお答えを願います。

近年、本市はにぎわい確保を名目に、観光産業の誘致や、そのための投資をかつてない規模に拡大しており、その典型例の一つがIRであります。また、クルーズ誘致、新たな劇場整備、上瀬谷における花博の開催とその後のテーマパーク誘致等々も、市は立て続けに推進しています。観光振興は確かに自治体の大事な役割の一つではありますが、過度に投資が大きくなれば同時に巨大なリスクを抱えることにもなりますし、まさに今こうしたリスクが顕在化し進行中であるという中で、何事もなかったかのように、今後かつての成功体験や、希望的観測をもとにした算段で大規模な投資をこのまま続けることは余りに無謀です。

そこでまず、これらの大開発事業、とりわけさきのIRに関しては、社会、経済が平静を取り戻すまでの当面の間、検討を先送りすべきものと考えますが、市長の見解を伺います。

また、国におけるこれらの検討過程においても、同様の趣旨で全体工程を立ちどまるよう働きかけるべきと考えますが、あわせて伺います。

IR説明会も当面の間延期とした中、十分な検証と落ちついた議論が必要なこうした長年にわたる重大案件が混乱のどさくさに紛れて粛々と進められるようなことがあっては、市政への信頼は明らかに失墜することになりますので、ぜひ賢明な御判断をいただきたく願います。

続いて、個別案件について伺ってまいります。

先般、旧上瀬谷通信施設の土地利用の方向性の核がテーマパークの誘致であると報じられ、本予算案においてもそれを前提とした内容が盛り込まれています。テーマパークというのは協議会のアイデアとしては理解できるのですが、市がここまで決め打ちの開発方針を

受け入れたことには少々違和感があります。また、こうした広大な敷地にテーマパークを建設し、維持していけるだけのプレーヤーは世界にも数えるほどしか考えられず、これで共創性、公平性が担保されるのかどうかも疑問です。

そこで、本利用方針の核をテーマパークという極めて限定された事業に絞られたのはなぜか、考えを伺います。

現にみなとみらいの開発はおくれにおくれたわけですし、何よりもカジノがなければ山下ふ頭ですら投資が集まらなると市は繰り返しはっきり明言してきた傍らで、より郊外の上瀬谷に広大なテーマパークの設置といった巨額の開発投資が来ると考えるのはなかなか難しいことです。

そこで、なぜ上瀬谷に限ってこうした大規模な民間投資があることを現実的と考えられたのか、その理由を伺います。

また、仮にそうしたものが実現したとして、市の全体的な観光戦略の中でそのような広大なテーマパークはどの位置づけられるのか、I Rや他の観光資源との関連性を踏まえてお答えください。

そして、上瀬谷の開発はこのような特定事業に限定するのではなく、より幅広い分野を対象に提案を募るべきと考えますがいかがでしょうか、市長の方針を伺います。

次に、新たな劇場整備に関して伺います。

劇場については、市長とお話をする中でも当初の意義は私も十分理解していたつもりでしたが、I R以上に市民にも議会にも情報提供や議論がないまま計画が大切なコンセプトを置き去りに進んでいく状況には疑問を禁じ得ません。一方で、I Rは早急に劇場は慎重にといった主張がさきにも出ておりましたことから見ても、現状の劇場構想はI Rの中に舞台芸術のできる劇場を設けてしまえば、ほぼ十分に満たせるような内容にとどまっており、現状の整備構想では役割的にI R構想と重複し、政治的にもI R誘致とは両立しがたいものと見受けられます。

そこで、新たな劇場とI R誘致はどちらが優先されるべき方針なのか、それぞれの事業化判断のタイミングを含めて市長のお考えを伺います。

また、こうした中でも、実現を図るのであれば、せめて長期的な視野に立った市民のための教育文化施設と位置づけ直し、規模の縮小や立地の見直しなど、大幅な軌道修正が必要と考えますがいかがでしょうか、伺います。

次に、I R誘致に関して伺います。

各区で説明会が行われましたが、I Rに関しては、さきの議会において、現状の説明内容では説明をすればするほど、仕組みがわかればわかるほど反対の声が大きくなると私は申し上げました。そして、これまでのところほぼ世論はそのとおりに推移しています。理由は幾つもありますが、主として感じたことは、財政が厳しいからと言う一方で、なぜ横浜市は財政が厳しいのかという、根本の要因や構造を説明せず、I Rが、しかもその解決手法になっていないどころか、むしろネガティブに作用するものになっているからです。また、I R疑獄に見られるような不正行為や、悪影響への対策もかけ声ばかりで、相変わらず具体的な方策を示されないからでありましょう。

そこで伺いますが、I R誘致が実現した場合と実現しない場合で、市ではなく一般市民にとってのメリット、デメリットは何だと言えるのか。4つの章に分けてそれぞれ具体的にお

答えをいただきたいと思います。

将来への不安は横浜市に限ったことではなく、むしろ成功者である市長よりも大多数の一般市民のほうがはるかに自分事として危機感を感じています。お金の話は大事とはいえ、何のためのお金なのか。失敗の穴埋めにすぎないのではないかと感じられればそれまでですし、政治への信頼が薄れ、将来社会のビジョンが示されない中では、何を言っても物言えば唇寒しです。誤った構造の中で財を成せば、誤った構造はますます強固なものとなり、改革の機運をそいでいきます。そのような悪循環に本市を陥れることがないように、私は市長にこそ I R の本質を再度勉強、理解していただき、早々に誘致をおあきらめいただくよう申し上げまして、一旦質問を終わります。（「そうだ」と呼ぶ者あり、拍手）

○副議長（谷田部孝一君） 林市長。

〔市長 林文子君登壇〕

○市長（林文子君） 豊田議員の御質問にお答え申し上げます。

新型コロナウイルス対策について御質問いただきました。

総合的対策のための補正予算の編成についてですが、現在、市内での感染拡大の防止に向けて全庁的な体制をとり、全力を挙げて取り組んでいるところです。経済的影響を最小限にとどめることを含め、市民の皆様にご不安が広がらないように、引き続き必要な対策を機動的に講じてまいります。今後の状況により、必要なときは速やかに補正予算を編成するなど、対策の推進に万全を期してまいります。

I R 等の開発計画は当面の間検討を後送りするべきとのことですが、I R を含め、本市が検討を進めている計画は、いずれも横浜の将来に大切な取り組みであると考えています。現在、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、説明会やイベントの開催を控えるなど十分な配慮をしております。

国にも立ちどまるよう働きかけるべきとのことですが、日本型 I R は我が国の魅力を高め、誰もが楽しめる新たな観光資源を創造する公共政策という考えに基づき、国家的なプロジェクトとして進められています。民間事業者ならではの創意工夫を生かして、観光立国を目指す日本における成長戦略の一翼を担うものと考えます。本市においても、宿泊客が少ないという観光の現状や、生産年齢人口の減少などの課題に対応するための重要な政策の一つであると考えます。国が基本方針案で示しているスケジュールを踏まえて進めてまいります。

旧上瀬谷通信施設の土地利用について御質問いただきました。

テーマパークを核とした理由についてですが、広大な土地を有し、広域からの交通利便性が高いという当地区のポテンシャルを生かして、国内外から多くの人を呼び込むことで、郊外部の活性化拠点を形成するため、観光・にぎわいゾーンの核といたしました。

大規模な民間投資を現実的と考える理由ですが、地権者で構成されるまちづくり協議会が観光・にぎわいゾーンの土地利用について複数の企業に提案を依頼したところ、多くの企業がテーマパークを中心とした土地利用を提案しました。このように企業の関心が高いことから、民間からの投資をいただけるものと考えています。

テーマパークの位置づけですが、本市では、横浜市中期4か年計画において、活気あふれる観光・MICE都市を戦略として位置づけております。活力とにぎわいのある都市の実現に向けて、交流人口の拡大を目指したさまざまな施策を推進しています。テーマパークを核

とした複合的な集客施設の立地はこの考え方に沿った取り組みであります。本市の観光資源の一つとして位置づけられるものと考えています。

公平に事業主体を募るべきとのことですが、現在、土地利用基本計画を策定している段階です。具体的な事業者は決まっておりません。今後、土地利用を具体化していく中で、地権者の皆様が公平かつ適切に事業者を選定できるように支援していきます。

新たな劇場計画について御質問いただきました。

劇場と I R 誘致の事業化判断を含めた優先度についてですが、いずれも横浜の持続的な発展にとって必要な事業であり、文化芸術の創造と発信、また観光、エンターテインメントなど大きな相乗効果もあると考えています。事業化については、事業手法が異なりますので比較できるものではありませんが、両事業とも令和 2 年度は本格的な検討業務の予算を計上しており、それぞれ着実に推進してまいります。

劇場を教育文化施設として位置づけ、軌道修正を図るべきとのことですが、新たな劇場はすぐれた舞台芸術に触れる機会をふやし、子供たちの豊かな感性を育み、そして芸術団体の担い手の育成にもつなげていくことを目的としています。豊田委員も海外に御視察にいらっしゃると思いますけれども、特にヨーロッパの劇場は昼間は子供たちや学生にできるだけ無料であるとか、安価で提供して、子供たちの教育に資するようにしているということがございます。横浜市もそれを考えております。また、にぎわいやまちづくりの推進、さらに経済活性化などへも貢献いたします。したがって、新たな劇場は教育文化とともに、文化芸術による多面的な役割を発揮できる施設として検討を進めています。

I R について御質問いただきました。

具体的な市民のメリットとデメリットですが、I R が実現した場合、財政改善への貢献が期待できるほか、一流の文化、芸術などを身近に体験でき、市民の皆様に楽しんでいただけることは大きなメリットだと考えます。一方、市民の皆様が不安に感じている懸念事項として、治安や周辺環境への影響、ギャンブル等依存症の増加などがあると認識しています。I R が実現しなかった場合、例えば多様な人材が活躍できる雇用の創出、開業後の大規模な需要の市内企業からの調達といった、地域経済活性化の機会が失われることなどがデメリットであると考えられます。また、メリットについては、市民の皆様の将来にわたる豊かな暮らしのために、しっかりと課題に対応しながら進めていきたいと考えておりまして、現時点においては想定していません。

以上、豊田議員の御質問に御答弁申し上げます。